

竣工・献堂記念

Recuerdo de la Ceremonia de Consagración



2006年6月17日(土)

カトリック住吉教会
星の園幼稚園

Iglesia Católica de Sumiyoshi



住吉教会の献堂に寄せて

大阪教区大司教 池長 潤

住吉教会の完成を心からお祝い申し上げます。阪神淡路大震災から10年余りがたち、まず一昨年に幼稚園の竣工と祝別を終え、さらに教会の建築が進められて、ようやく今日、不便をしのびながら待ちに待った日が訪れたことに、皆様の喜びもひとしおでしょう。

新しく、美しく、そして明るい建物ができたことは、これからの住吉の教会の姿を先どりして現しているように思えてなりません。古来、教会の繁栄というものは、外から誰かが働きかけてもたらされたためしがありません。つねに内から、しかも教会を構成する人々の魂の奥から湧き上がる何かがあって、はじめて達成されるのです。世界的規模であれ、一小教区単位であれ、この点では変わりはありません。ルネッサンスの頃に、宗教改革が大分裂をもたらし、カトリック教会の勢いが著しく衰えたかに見えた時、聖イグナチオ・ロヨラが新しい修道会を起し、弟子である聖フランシスコ・ザビエルを東洋にまで派遣して、アジアで多くの改宗者を出し、再びカトリック教会の力をみなぎらせた出来事は、日本の私たちにも深い感銘を与えています。

一つの教区の例をあげると、鳥根県の松江の教会を紹介したくなります。本当に小さな地方教会であったものが、いつの間にか無数の司祭や修道者を輩出する全国から見ても有数の召命の宝庫となったのです。スイス人の一人の聖人のような神父様の影響であることは、誰もが認めている事実です。

さて、私は、今日、住吉教会の竣工と献堂のお祝いにあたって、これからこの教会が内からの盛り上がりによって、思いがけないほどの発展を遂げるための、ひとつの道を示したいと思います。これからは、これまでのように自分たちの神父様だけに頼ってはい、どのような思いがけない事態にいつ見舞われるかわからないのです。今はお元気なパウロ神父様がいらっしゃって、新しい建物も出来、恵まれています。けれども、恵まれていればこそ、今のうちに、しっかりと将来を築かねばならないのです。今の間に、神父様やシスターと信徒が一体となって、宣教、司牧活動を工夫し、一緒にさまざまな奉仕を担いあうよう具体的に立案、実行をしなければなりません。

さらに、幼稚園と教会が手を取りあって、一緒に宣教活動を展開してゆかなければなりません。園児の父兄も教会もなじみになり、幼稚園の先生方も、教会の皆さんと共に、どうすれば、住吉教会と星の園幼稚園が地域から愛され、逆に、カトリック教会の世界的遺産を地域の方々と分かちあえるかを真剣に考える必要があるでしょう。幼稚園の先生方と、教会の評議会が一緒の会合を持つことも大切ではないでしょうか。

新建築が、この建物に出入りするすべての人たちのよき交わりの場となるよう祈ります。



蒔かれた種

鈴蘭台教会

ロジェ・ベロー神父

新しい聖堂の誕生にあたり、お慶び申し上げます。

私が日本へ来た当初、住吉教会の敷地には戦災で焼かれた最初の聖堂のセメントの土台しか残っていませんでした。仮聖堂が(曇、暗い雰囲気...)台風13号によって飛ばされて、やがて新しい聖堂ができました。そして、神戸淡路大震災の後、再び“新しい聖堂”が誕生しました。

しかし、建物は変わっても、建っている土地は同じ。そして、その“土地”の中に、初期からの司祭、初期からの信者の足跡が、見えない「化石」として残っています。喜びの花、悲しみの花、苦労の花、涙の花、希望の花など数え切れないほど埋まっています。

今日まで働いてくださった大勢の方々に感謝！

困難が多かったが皆本当によくやった！！

今からは、次の世代に向かって行くのだ

新たなところ、新たな希望、新たな“生命”が生まれようとしている

私の青春、宣教師としての人生が住吉教会から始まりました。まさに“初恋の時代”を忘れることは出来ません！歩み方を教えてくださった方々に常に感謝しています。

最後に、幼稚園のバッジのデザインを考えた時、“ダークブルーの世界”の中に、キリストの十字架の光に照らされて、星のように光り輝く教会、そのような教会が私の夢でした。

では、新たなところを持って、再出発ではなく、すでに蒔かれた種が成長していくことを願ってお祈りします。





感謝と賛美のうちに



パウロ神父

シリロ神父

カトリック住吉・神戸中央教会
共同宣教司牧チーム

パウロ・セコ神父
シリロ・オラデレ神父

この教会および幼稚園の建築が始まって、2年以上が経過しました。ついに今日、私たちはその完成を祝います。なによりも心は喜びに満たされています。なぜなら、この2年間私達は色々な苦労や困難を体験してきました。そして、それを通して本当に価値あるものは、建物よりも共同体が一致して神を賛美し隣人に奉仕することだということを知りました。

喜びと共に感謝の心でいっぱいです。すべての人の努力と協力のおかげです。ある人たちは週末に椅子を並べ主日のミサの準備をし、ある人は建物を考え計画し、ある人は励まし、ある人は祈り、又ある人は会合に参加しました。日本設計と松井建設の方々は献身的に尽くして下さいました。大司教区とこの共同体のすべての人、幼稚園の先生方をはじめ、この地域の近所の方々、この2年間、いろいろな騒音や工事のほこりをよく堪えてくださったおかげで今日の完成を祝うことができました。近くにいる方、又遠くにいる方、地区とブロック、大阪教区のすべての小教区にも感謝いたします。皆の祈りや支えを感謝いたします。今日私たちは喜びのうちに声を合わせて神に感謝を捧げます。神はすべての命を支え、生かします。聖書のみ言葉とともに賛美しましょう。

わたしたちの神、主よ、あなたは世々としえにほめたたえられますように。偉大さ、力、光輝、威光、栄光は、主よ、あなたのもの。まことに天と地にあるものすべてのものはあなたのもの。あなたはすべてのものの上に頭として高く立っておられる。あなたは万物を支えている。勢いと力は御手の中にある。わたしたちの神よ、今こそわたしたちはあなたに感謝し、輝かしい御名を賛美します。すべてはあなたからいただいたもの、わたしたちは御手から受け取って、差し出したにすぎません。わたしたちの神よ、主よわたしたちがあなたの聖なる御名のために神殿を築こうとして、準備したわたしたちのお金や時間、努力や祈りは、すべて御手によるもの、すべてはあなたのものです。わたしたちの神よ、わたしたちはあなたが人の心を調べ、正しいものを喜ばれることを知っています。わたしたちは正しい心をもってこのすべてのものを捧げました。わたしたちの神よ、主よ、これをあなたの民の心の思い計ることとしてとしえに御心に留め、民の心を確かにあなたに向かうものとしてください。アーメン。

(パウロ神父記)



Llenos de gratitud y alabanza

Equipo pastoral Sumiyoshi y Kobe Chuo

Han pasado más de dos años desde que empezaran las obras de construcción de esta Iglesia y su parvulario y hoy, por fin, celebramos su término. De lo que más rebosa el corazón es de alegría, porque durante estos dos años hemos sabido experimentar estrecheces y, con ellas, se aprende a valorar que lo que realmente importa no es tanto el edificio, sino una comunidad unida que quierer alabar a Dios y servir al prójimo.

Y junto con la alegría, el corazón rebosa de agradecimiento, porque gracias al esfuerzo de todos: unos colocando sillas cada fin de semana y otros pensando y planificando el edificio, unos animando y rezando y otros participando en reuniones, pero gracias al esferzo de todos, al de Nippon Sekkei, al de Matsui Kensetsu, al del obispado y al de todos los que formamos parte de esta comunidad: desde las maestras del parvulario hasta los vecinos de este barrio que han sufrido durante estos años los ruidos y el polvo de las obras, hemos podido llegar a la celebración de este momento.

Damos gracias a los de cerca y también a los de lejos. Gracias a las parroquias del bloque y a las del arciprestazgo. Gracias a todos por su oración y apoyo.

Hoy todos podemos unir nuestras voces con alegría y dar gracias a Dios, que es El que mueve y sostiene todas las vidas, y decirle usando las palabras del libro de las crónicas:

Bendito seas por siempre y para siempre Señor. A ti, Señor, la grandeza, el poder, el honor, la majestad y la gloria. Tuyo es cuanto hay en el cielo y en la tierra. Tú eres el dueño de todo, en tu mano está la fuerza y el poder, la estabilidad y consistencia de todo. Por eso, Dios nuestro, nosotros te damos gracias y alabamos tu nombre glorioso. Todo viene de Ti, y como recibido de ti te lo hemos dado. Todas nuestras ofrendas de dinero y de tiempo, de esfuerzo y de oración para edificar un templo a tu santo nombre, son tuyas y te pertenecen. Nosotros sabemos, Dios nuestro, que tú sondeas el corazón y amas la rectitud. Con rectitud de corazón hemos hecho nuestras ofrendas. Señor, conserva para siempre en tu pueblo estos sentimientos y disposiciones y dirige nuestros corazones hacia ti. Amén.

Pablo Seco



献堂式によせて

星の園幼稚園

園長 松谷 馨子

このたびの住吉カトリック教会の献堂式にあたりまして、心よりお祝いの言葉をのべさせていただきます。

住吉カトリック教会、そして星の園幼稚園の建て替え建設は、神父様をはじめ多くの信徒の皆様様の深いお祈りのうちに実現されたものと存じます。この日を迎えられるまでの長い年月には、色々なご苦労があったことと存じます。

私が昨年3月半ば、はじめて星の園幼稚園に参りました時には、すでに園舎棟は完成いたしておりました。その数日後、旧園舎より新園舎へ引越しをいたしまして、平成18年3月18日、新園舎の祝別式が執り行われました。この地で53年前の嵐のあとに、信徒の方々、そして地域の方々の幼児教育に対する熱い思いから創立されました星の園幼稚園。今日まで2000人を越える多くの園児たちを送り出してまいりました。そして今年もまた、32名の園児たちがこの星の園幼稚園を巣立っていきました。初代園長のベロー神父様の言葉の通り、この星の園幼稚園を巣立っていった多くの子ども達が、夜空に光り輝く星のように、それぞれの場所で輝いていることを誇りに思っております。

さて、このたびの建て替えに際しましては“教会と共に歩む幼稚園”というコンセプトで設計がなされたと伺っております。まさに人格形成における最も大切な幼児期に“教会がある幼稚園”として、今後もその使命を果たしていけますよう、私たち職員一同、日々努力して勤めてまいりたいと存じます。

ここ近年、幼児を取りまくさまざまな環境が急速に変化しております。しかしながらどんなに周りの色々な状況が変化しても、本園の教育目標の一つでもありません“一人ひとりを大切に教育”の実践に益々励んでいきたいと思っております。

平成18年度は、5クラスで園児数130名でスタートいたしました。新しくなった教会と幼稚園、きれいな園舎できれいな心を、これからも育んでいけますよう、職員一同心新たに頑張っております。





献堂式を迎えて

建設委員長 鳥居興彦

2006年6月17日、待望の教会及び幼稚園の建物すべて完成し、ここに献堂式を迎えられたことに心から主に感謝し、喜び合いたいと思います。2年前、旧聖堂の取り壊しに当たり、歴代司祭によるお別れミサを行い、聖堂の前でみんなで写真を撮ったのがついこの前のように感じられます。広報チームで作っていただいた写真集「住吉教会の思い出」の最後のページに、その写真と共に「2年後に再びこの場所で元気に集まりましょう」とあります。その言葉の裏には、果たして2年間、聖堂なしでやってゆけるのだろうか、葬式や結婚式はどうするのか、駐車場もなくなりミサも園児用の小さな椅子で間に合うのか、幼稚園の教会での毎週のミサの準備、後片づけはうまくゆくのか、司祭まで居なくなって...と云う不安で一杯でした。又、幼稚園についても、2年間、ろくな運動場なしで大丈夫なのか、運動会はどうするのか、出来上がった頃には園児は一人もいなくなってしまうのではないかという心配をしたものです。幸いなことに、司祭及び、日々教会や幼稚園を管理運営されている方々の努力、そして信徒の方々の協力により大きなトラブルも無く2年間を乗り切れました。

この2年間はあっという間に過ぎましたが、ここに至るまでに20年と云う長い年月を要しました。そしてその期間は大きく3つの時期に分けることが出来ると思います。

第1の時期は、震災(1995年1月)までの約10年間で、老朽化した建物をどのような新しい建物に建て替えるかと勉強した時期です。平行して積み立てたお金もある程度貯まりました。

第2の時期は1997年から2002年6月までの約5年間で、住吉教会独自で、教会のコンセプトや建物の配置等ハード面について勉強した時期です。当初は、「住吉共同体を考える会」と称していました。

第3の時期は、教会及び幼稚園の建て替えが具体化した2002年6月以降現在に至るまでの4年間で、今まで勉強してきたことをベースに、教区や設計会社とも一緒になって、作り上げたコンセプトをどのようにデザインに生かしてゆくか、具体的に建物設計の議論を重ねると共に、その後の工事施工にかかった時期です。

このように、長い歳月と多くの方々の尽力によってここにすべての建物が完成したわけです。



そして今一度、当初この教会を再建するに当たって作り上げた 4 つのコンセプトについて振り返ってみたいと思います。

地域との交わりを大切にす教会。

幼稚園を大切にし、共に歩む教会。

信徒の交わりを大切にし、癒される教会。

東灘区における宣教に力を入れる教会。

これらのコンセプトは、いずれも建物が完成した今後、その実現に向けて努力してゆく事柄です。いずれもたやすく実現できるものではありませんが、少しずつでも前進できるようにたゆまない努力が必要です。そういう意味では、これからも教会づくりは続き、むしろこれからこそが本番と言っても良いかもしれません。キリストの教会は、建物も大切ですがそれ以上にその中身が大切だと思うからです。

当初の気持ちを忘れないためにも、当時住吉教会が他の教会に統合されてしまうかもしれないと云う不安が漂い、残るかどうかさえはっきりしない時に開かれた「住吉共同体を考える会」のパネルディスカッションの最後に、主任司祭であった矢野神父様が話された言葉(「すみよし」1998年イースター号)を再掲して締めくくりたいと思います。

「本当に私達は、住吉教会と言うか、信仰の共同体のために新しい建物を切に願っているかどうか、切に切に……。それは、ただ欲しいだけでなく、熱心な祈りの中で、本当に叫びのような祈りの中で新しいものを求めているかどうか……。そして大切なことは、私達がキリストにおいて本当にしっかりと立つと言うか、私達の信仰がそういう熱い熱い思いの中で新しいものを生み出してゆくことだと思います。本当に熱心に祈って、願って、そして信仰の共同体をしっかりとしたものに作ってゆくべきだと思います」





住吉教会献堂・星の園幼稚園

新築を記念して、震災以後の振り返り

評議会議長 氏家友三

新緑の候、多大な皆様方のご支援により、いよいよ教会・幼稚園のすべての建物群が完成します。住吉教会・星の園幼稚園・地域の方々にとって、阪神淡路大震災後、11年5ヶ月を有した、待ちに待った完成です。

振り返れば、震災前の住吉教会は伝統あるたたずまいの様相を見せ、アットホームな神父様・信徒会の雰囲気も、須磨教会から転籍してきた私にとってとても入りやすいものでした。

1995年1月17日未明の阪神淡路大震災の発生によって、芦屋市や神戸市東灘区とりわけ住吉地区は大多数の倒壊家屋、人的被害に見舞われ、震災1週間後、教会へたどり着いた時は、ただ驚きとこれからの困難な状況を思い、思案に暮れました。

それから地域支援の生活物資無償提供のバザーや安否確認調査が始まり、六甲教会の堀川様に同行させて頂き、東灘区・灘区の被災世帯を自転車でご訪問させて頂きました。

住吉仮設住宅(206世帯)のプレハブ群が完成し、住之江地区自治会役員の皆様、コープ神戸第4地区、東灘助け合いネットワーク、住吉仮設自治会長野会長はじめ多くの皆様、大阪教区大阪北ブロックの皆様とともに、諏訪神父様のリーダーシップに助けられながら、「ふれあい広場」(地域ふれあい喫茶・医療相談等)が展開され、協議会も設立され、「皆がお互いに助けられる」状況が生まれました。

活動が活発に展開される中で、住吉教会評議会は星の園幼稚園と連携し、組織体制の激変でさながら「文化大革命」と評されたのが当を得た状況でした。

評議会の組織も従来の「教会運営」から「教会・幼稚園・地域の連携が行いやすい、動ける体制」へと変化し、多くのリーダーたちが活動しました。

矢野神父様が赴任され、星の園の山口シスター・金松シスターはじめ職員の方々、住吉信徒会の景山会長・黒田会長・山内会長のリーダーシップによる活動展開により、新しい形の未来を見据えた評議会が誕生し、成長していきました。そして現在のパウロ神父様・シリロ神父様のご指導のもと、ブロック化がはかられ、「小教区」というイメージから「ブロック」「地区」という単位へさらに拡充されつつあります。

老壮年婦人層に加え、教会も幼稚園も若い青年学生の力が育ち、生き生きと動き出し、また、国際チームとセニョール・デ・ロス・ミラグロスの協働展開の中で世代を超えた多面的、多文化共生の活動が継続されています。

聖堂・幼稚園のハード面の完成を1つの契機として、次の時代へと継承していくことがこれからの、この建物群を使う私たちの役割です。

主の大いなる恵み・導きに感謝しますとともに、教区・日本設計・松井建設・地域・教会・星の園幼稚園はじめ多くの皆様方に、感謝とこれからも引き続きのご支援とご指導をお願い申し上げます。



定められた時

評議会顧問 景山信義

3月初め、外周足場の解体が始まり、シートで覆われていた聖堂が姿を現しました。曇り空の中、外壁は黄色っぽく感じられたものの、落ち着いた色に仕上げられていました。

旧聖堂解体から2年間、幼稚園の教室を間借りしての毎日もようやく終わりました。この長丁場を皆が一致協力して乗り切ることができたことは、貴重な経験となりました。

思えば聖堂建替えに至る道程は、決して平坦なものではありませんでした。1980年5月、稲田神父様と谷尻治男信徒会長が新聖堂建設を決断され、84年には建設委員会を設置、以来ほぼ四半世紀にわたり、ああでもない、こうでもないの議論が延々と続きました。時には投げ出したくなることも一度や二度ではありませんでした。

最大の問題は建設資金でした。創立50周年の前年84年より積立を開始、ある程度の金額を積み立てた時点で大震災に直面しました。教区の新生計画では被災地教会の建替・修復費を35億円と見込み、小教区にも拠出要請があり、住吉は積立金全額を拠出することにしましたが、果たしていつ建替えられるのか、先の見えない状況が続きました。

震災後中断していた建設委員会も再開し、99年教区に検討結果を説明しましたが、その席上教区より、建設費は全額教区負担とする方針が示されました。2003年5月には池長大司教のご決断により、曲面建物の基本レイアウトが決まり、翌年7月幼稚園が起工、1年後の今、聖堂が完成しました。

竣工を迎えた今はほっとしたという思いと同時に、新聖堂の完成を待ち望みながら天に召された方々に、今日の晴れ姿をお見せしたかったという思いが交錯します。84年建設委員になった時の私は40代でしたが、今は高齢者となりました。22年もの間、携わってこられたのは、ひとえに聖霊のお導きがあったればこそです。神様は教会と幼稚園の気持ちが一一致し、私達に地域社会と共に歩むことの大切さを悟らせ、それを見極められた上で今の時期を選ばれました。

「何事にも時があり、天の下の出来事はすべて定められた時がある。生まれるとき、死ぬとき・・・破壊するとき、建てるとき・・・」(コヘレト3.1-11)

最後になりましたが、私たちの永年の悲願をかなえて下さった大阪大司教区と、震災以後多大のご支援を下さった全国各地の教会・修道会をはじめ諸団体と、多くの皆様に厚くお礼申し上げます。そして私たちの数々の注文を実現して下さいました日本設計と松井建設の皆様に感謝申し上げます。



住吉教会聖堂献堂記念誌に寄せて

株式会社日本設計関西支社 シニアアーキテクト

垣 口 知 久

このたび、住吉教会献堂記念誌の発行におかれましては、たいへんおめでとうございます。また、この新聖堂の建設にあたりましては、たいへんお世話になりました。僭越ながら、お祝いと、感謝の意をこめまして、一言お贈りさせていただきたいと思っております。

思えば、私どもが、住吉教会の新聖堂の建設にあたり、設計としてのお手伝いをさせていただくようになってから、聖堂の完成を迎える今日に至るまで、4年の月日を数えるようになりました。大づかみで言えば、設計に2年、工事に2年の月日が、今となっては、長いようで短い月日でありました。それ以上に、我々が参加させていただくずっと以前から、建設委員会の皆様をはじめとしまして、大司教区の皆様方、幼稚園の関係者の皆様におかれましては、たいへんなご苦労だったと思っております。あらためてその月日の重さと皆様のご苦労を実感しております。

この教会は、明快なコンセプトを持っています。それは、『「教会と幼稚園がともに生きる」また「地域とともに生きる」教会を創る』という、非常に明快なもので、長い年月にわたって、建設委員会において積み重ねてきた議論の賜物であり、非常に明快で説得力のあるものです。その力強いコンセプトを、我々は設計を始めるにあたって頂きました。設計の段階では、そのコンセプトの意味を理解し、解釈して、より率直に、わかりやすい建築の表現にするために、スタディを重ね、議論し、形づくりました。そして「一体的なフォルムで幼稚園と教会を創る」ことで、皆さんの目指すものを、建築的な表現に具体化して、なるべく多くの皆様に共有していただけるように意図しました。

また、この教会の建設におきましては、皆さんとの議論の末、そうして出来上がった建物だけではなく、この建物を創り上げていくプロセスそのものが、まさにコンセプトの実現だったと思えます。教会の方々と幼稚園の方々が、議論を重ね、お互いが納得するまで、御一緒に進めてこられました。その意味では、これから建物を使われていくこれからの時間の中でも、まさにコンセプトの実現の努力を積み重ねていくことで、さらにその意図するものを、固めていくことが必ずできるものと確信します。

今、ようやく思いの賜物を形にすることができ、たいへん感慨深く思うところであります。設計から現場を経て、今日完成を迎えるまで、建設委員会の委員の方々には、たくさんの御意見を戴きまして、設計の内容に、深みを増していくことができました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、皆さんとの協働の賜物でありますこの建物において、今後とも未永く教会と幼稚園が共存し、ともに繁栄されることを祈念しております。



竣工を祝って

松井建設株式会社 大阪支店

現場代理人 小川 政 広

カトリック住吉教会と星の園幼稚園の竣工おめでとうございます。

阪神淡路大震災という痛ましい災害からの復興としまして、皆様の並々ならぬ努力と苦勞が、こうしてすばらしい形となり、本当に喜ばしいことと存じます。また、私共松井建設株式会社が、そのお手伝いをさせていただくことができ、心よりうれしく思っております。

松井建設株式会社は、今年創業 420 年を迎え、社寺建築におきましては東京の築地本願寺をはじめ、全国に実績がありますが、残念ながら教会建築におきましては十数件しか実績がありませんでした。私自身も、過去にはお寺の施工経験はありますが、教会建築は初めてで、最初に設計図を見せていただいたときには、一般に想像する教会とは大きく違った形をしており、その上に、直線の無い曲線的な建物で、非常に難しく、又、やりがいのある建物であると感じました。そして工事中には建設委員会の皆様には色々な話をお聞かせ頂き、「教会建築」についての勉強をさせて頂くことによりまして、この独創的な「カトリック住吉教会」を完成させることができ大変うれしく思っております。また、工事施工を担当させて頂きました者として、工事が進むにつれ建物が形を成すにつれ、他には類を見ない独創的な教会・幼稚園が完成していき、今までにない達成感と満足感を得ることができております。

幼稚園棟から工事着手致しまして約 2 年の間、教会関係者の皆様、建設委員会の皆様、設計事務所の皆様には教えを頂き、又、工事へのご理解とご協力を頂きまして今日を迎える事が出来ました。本当にありがとうございました。

今後この「カトリック住吉教会」が皆様の心の支えとなり、未永く皆様に親しまれ、愛され続けられますことを心より願っております。





旧聖堂外観



起工式



十字架と珍しい源平桃



基礎工事現場



お別れミサ



解体風景



建築現場

星の園幼稚園



新聖堂外観



新聖堂について



幼稚園と教会の一体感

北側正門を入ると出会いの広場の左に教会、右に幼稚園があります。南側の園庭から見ると、2つの扇形の建物が赤い渡り廊下で結ばれ一体感を現しています。

聖堂、ホール、出会いの広場

この3つが扉を開くと一体となるよう配置されています。この3つが一体となるのが、建設に当り最初から持ち続けた最も大切な建物のコンセプトです。



出会いの広場

聖堂

新しい感覚を取り入れたモダンなものとなりましたが、木でできた祭壇正面には、旧聖堂ゆかりの十字架が取り付けられました。座席は前後間隔1mの固定席として、ゆとりをもたせました。スタンドグラスが後方高窓と小聖堂につけられる予定です。

十字架

この十字架については、「すみよし」163号に載りました旧聖堂を建てられたペロー神父様のお言葉が、この十字架に込められた意義を皆様にお伝えする最上の方法と考えます。

ペロー神父

『あの十字架はね、サハラ砂漠で一人暮らしをしていたフーコ神父が自分で十字架を彫ったんです。その神父は最後にアフリカで殺されましたけど。わたしはその小さなコピーを持っていました。三宮の裏の方のバラックで仕事をしていた職人さんを紹介してもらって、大きく作ってくださいと言ったんです。2000円か3000円位。それができてどうやって持って帰ろうかって…。それでその十字架、からだにくくりつけて担いでスクーターに乗って2号線走った。運賃払えないでしょ、その時。面白かったですよ。「変な外人」とみんな思ったですよ。』
まさに国道を走るスクーターによる十字架の道行き!



十字架の道行き

簡潔な美しさで表現された旧聖堂の十字架の道行きの絵は、長年信徒に親しまれてきましたが、痛みがひどくそのままでは使用できないことが判り、この度、陶板画として生まれ変わり架けられる予定。この14枚の絵はペロー神父様が住吉教会の信徒、故網谷義郎画伯を通して新制作協会の画家、中島節子さんに依頼されたものです。この方は小磯良平画伯の弟子で、その作品が小磯記念美術館に収納されています。陶板にするに当り美術館を通してその使用許可をご遺族から戴き現在作成中です。

(5月17日現在)



新聖堂



小聖堂

聖櫃 (せいびつ)



栄光を表すアーモンド型の光背に包まれたキリスト、四隅に人(マタイ)ライオン(マルコ)牡牛(ルカ)鷲(ヨハネ)を配し、12人の弟子に囲まれた最後の晩餐をイメージしています。



住吉教会誕生から新聖堂落成まで(1935～2006年)

1935年 (S10)	メルシェ神父	兵庫県御影に仮聖堂設置(御影教会)
1936年 (S11)		現在地に聖堂・司祭館落成
1945年 (S20)	デラー神父	神戸大空襲により聖堂焼失 <広島・長崎に原爆投下。太平洋戦争終結>
1953年 (S28)	ジュセン神父	台風13号により仮聖堂損壊
1954年 (S29)		星の園幼稚園開設
1956年 (S31)	メルシェ神父	新聖堂落成・献堂式
1960年 (S35)		創立25周年祝賀式
1964年 (S39)	ペロー神父	聖パウロ三木館完成 <オリンピック東京大会>
1975年 (S50)	稲田神父	新聖堂建設について検討始まる。納骨堂完成。
1979年 (S54)	(安田大司教)	聖堂前に聖パウロ三木像建つ <マザー・テレサ・ノーベル平和賞>
1985年 (S60)	松本武三神父	創立50周年記念式 新聖堂建設の為の募金始まる。
1989年 (S64)		<昭和天皇崩御>
1995年 (H7)	生藤神父	阪神淡路大震災により聖堂損壊、司祭館全壊 <東京地下鉄サリン事件>
1996年 (H8)	諏訪神父 (池長大司教)	震災後新聖堂建設の為の新プロジェクト発足
1997年 (H9)	矢野神父	三木館2階を司祭館に改装
1999年 (H11)		<9.11NY 貿易センタービルでテロ>
2002年 (H14)		教会建設に伴う什器備品購入資金作りの積み立て始まる
2004年 (H16)	諏訪神父・パウロ 神父・シリロ神父	共同司牧始まる 新聖堂及び新幼稚園建設が大阪大司教区より認可 聖堂お別れミサ(ペロー神父司式) 旧幼稚園教室でのミサ始まる <新潟中越地震、スマトラ沖大津波災害>
		4・29
		5・25
		6・22
		7・10
2005年 (H17)	パウロ神父 シリロ神父	起工式
		3・18
		新幼稚園落成式(池長大司教祝別) 新聖堂建設始まる。三木館・旧幼稚園解体。 ミサは引き続き新幼稚園教室で行う。 <ヨハネ・パウロ2世逝去・ベネディクト16世着座>
		11・1
2006年 (H18)		上棟式 新聖堂献堂式(池長大司教司式)
		6・17



カトリック住吉教会

〒658-0053 神戸市東灘区住吉宮町2 - 18 - 23

TEL: 078- 851-2756 FAX: 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>